

教育研究業績Ⅰ：研究活動

「記入要領」を参照のうえ、以下の項目順に記載してください。
※該当する実績がない項目は「該当なし」と記載してください。
※すべての項目が「該当なし」の場合でも、必ず提出してください。

1. 研究者情報

ORCID :

研究者番号 :

Researcher ID :

2. 著書

- ・「〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇」2017.4 〇〇出版
- ・(分担執筆)「*****」pp.89-105 2015.9 △△書店
- ・(共著)「□□□□□□□□」第3章 pp.26-54 2006.8 □□大学出版部
- ・「△△△△△△△△」2003.4 △△書房

合計 10 件

3. 修士論文・博士論文

【修士論文】「*****」2000.2 早稲田大学理工学研究科

【博士論文】「□□□□□□□□」2003.1 早稲田大学理工学研究科

4. 論文

- ・(査読付)「△△△△△△△△」2016.4 〇〇学会
- ・(共著)(査読付)「*****」大久保太郎(筆頭)、戸山花子、本庄次郎 pp.123-145 2014.7
大学研究所
- ・(共著)(SCOPUS 掲載)「□□□□□□□□」pp.13-21 2012.12 △△出版
- ・「〇〇〇〇〇〇〇〇〇」2009.8 〇〇学会

合計 15 件 (うち査読付 3 件、SCOPUS 掲載論文 3 件、Web of Science 掲載論文 2 件)

5. 学会発表

- ・(国際学会)(招待講演)「***** (英語)」2016.5 第*回*****学会
- ・(国際学会)(査読付)「△△△△△△△△(独語)」2014.11 国際△△学会総会 △△学会報告 vol.12
- ・(基調講演)「〇〇〇〇〇〇〇〇〇」2010.5 〇〇大学〇〇研究会
- ・「□□□□□□□□」2009.1 第□回□□□□学会

合計 20 件 (うち国際学会 2 件、招待講演 3 件、基調講演 3 件、査読付 5 件)

6. 外部資金獲得状況(科研費、公的資金、民間団体研究費等、いずれも研究代表者に限る)

- ・JST さきがけ「〇〇〇〇〇〇〇〇〇」2015-2017 年度 1,200 万円
- ・科研費: 基盤研究B「*****」2014-2016 年度 600 万円
- ・△△株式会社受託研究「△△△△△△△△」2012 年度 500 万円
- ・総務省委託事業「□□□□□□□□」2012 年度 150 万円
- ・科研費: 若手研究「△△△△△△△△」2009-2010 年度 300 万円

合計 件 (うち科研費 2 件、公的資金 2 件、競争的資金 3 件)

7. 研究活動における受賞歴

- ・ * * * * 学会論文章 (〇〇部門) 受賞論文「*****」2013 年

8. 特許・実用新案

9. 日本以外の国における研究歴

10. 海外機関との共同研究等の実績、その他研究活動上特記すべき事項

- ・ △△△△に関する研究について〇〇新聞にて特集記事掲載 (2013 年**月**日)

教育研究業績Ⅱ：教育活動

「記入要領」を参照のうえ、以下の項目順に記載してください。

※該当する実績がない項目は「該当なし」と記載してください。

※すべての項目が「該当なし」の場合でも、必ず提出してください。

1. 教育活動における受賞歴、教育面での評価（ティーチングアワード等）

- ・2017年度〇〇大学ティーチングアワード学長賞（〇〇大学△△学部講義「〇〇〇〇論」）

2. これまで担当した主な科目

- ・△△△△△特論（〇〇大学〇〇学部、2014～2017）
- ・△△△△△演習（〇〇大学〇〇研究科、2012～2016）

3. 直近3年間の論文指導学生数

年度	修士論文		博士論文	
	主査	副査	主査	副査

4. 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）、日本語以外の教育歴

- ・講義「国際●●論」においてオリジナル教材を作成。グループディスカッションを多く取り入れ、学生に考える習慣を教育。（△△大学△学部、2016～2017）
- ・●●学と▲▲科学を融合した教育を実施。●学、▲科学、□□学、〇〇学いずれの基礎教育を受けてきた学生でも〇〇〇〇学が理解できるよう、それぞれの基礎知識から他の分野に広がる工夫をしている。（〇〇大学〇〇学部、2016）
- ・毎時間報告書を提出させ、学生の理解度を確認するとともに授業改善に役立てている。（〇〇大学〇〇学部、2014～2016）
- ・英語学位プログラムにおける「〇〇〇〇」の講義を担当。外国人留学生に対して英語での講義を提供した。（〇〇大学〇〇学部、2015～2016）
- ・〇〇の授業において、メディアで話題となっているテーマや有名企業の決算を解説することにより、当該分野の基礎のない学生に興味を持たせる工夫を行った。（□□大学□学部、2013）
- ・所属する〇〇内において、□□チーム向けのセミナーの企画・運営とともに、講師として解説等を行い、〇〇内の基準の解釈等の教育に携わった。（△△監査法人、2014）
- ・

5. 作成した教科書、教材、参考書

- ・〇〇講義における反転講義コンテンツ（日本語・英語）の開発（〇〇大学△△学部、2015）
- ・△△人材育成のためのPBL教材の作成（△△省、2008）

6. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等

- ・〇〇県教育委員会「〇〇〇〇〇〇〇〇人材育成の手法」（2015.9）
- ・△△研究会「△△△△△△△教材の開発（英語）」（2013.6）

7. 教育方法に関するセミナー・研修等の受講歴

- ・ ○○大学 ファカルティ・ディベロップメント・セミナー（2017.9）

8. 日本以外の国における教育活動歴とその言語

- ・ ＊＊＊＊＊大学（フランス、パリ）で客員教授として、いずれもフランス語で「○○○○」の講義、および博士課程学生に対して研究上の指導を行った。（2014.10～2016.8）

9. その他教育活動上特記すべき事項

- ・ ○○株式会社 社内教育「LSI 設計技術講座」講師（2014.10）
- ・ ○○学会 先端技術フォーラム講師「磁気ディスク装置の最新技術」（2014.7）
- ・ △△社「月刊＊＊＊＊」の特集記事において、○○教育の手法について記事掲載（2016 年**月**日）

教育研究業績Ⅲ：専攻分野に関する実務経験

「記入要領」を参照のうえ、以下の項目順に記載してください。

※本書式は主に実務者の方が記入されることを想定した書式です。

※該当する実績がない項目は「該当なし」と記載してください。

※すべての項目が「該当なし」の場合でも、必ず提出してください。

1. 専門分野に関する実務経験

- ・ ○○弁護士事務所 弁護士（弁護士登録 2004.3、2004～2017）
（主な担当事件を記載）
- ・ 東京地方検察庁 検事（2000～2017）
（主な担当事件を記載）
- ・ ○○ボランティア協会 コーディネーター（2009～2016）
（具体的な活動内容を記載）
- ・ 金融庁○○課 専門官（2007～2015）
（具体的業務内容を記載）
- ・ 監査法人○○事務所 公認会計士（公認会計士登録 1992.8、1995～2005）
（具体的業務内容を記載）
- ・ フリー・ジャーナリスト（1990～現在）
（具体的活動内容を記載）

2. 専門分野に関する実務経験上、特記すべき事項

- ・ 公認会計士試験 試験委員（H23 年度試験～H26 年度試験）
- ・ 日本公認会計士協会 各種委員
 - ・ 監査基準委員会（2006.8～2014.7）
 - ・ 監査・保障実務委員会（2006.8～2014.7）
 - ・ 会計制度委員会（2010.10～2013.7）
- ・ 司法修習生指導補佐官（東京地裁、2015.4～2017.3）
- ・ 文部科学省○○育成事業（2016.4～2017.3）
- ・ 総務省 行政イノベーション委員会 委員（2014.11～2015.6）
- ・ 科学研究費補助金 審査委員（2004.4～2006.3）
- ・ ○○新聞社 紙面審議会 委員（2000.4～2002.5）
- ・ 財団法人○○記念財団 理事（1999.4～2006.3）
- ・ NPO 法人 ○○○○ 理事（2001.8～現在に至る）
- ・ **テレビの番組「△△△△ニュース」に出演 ○○分野の専門家として*****に関して解説（2016 年**月**日）

教 育 研 究 業 績 IV : 所属学会、保有資格、その他

「記入要領」を参照のうえ、以下の項目順に記載してください。

※該当する実績がない項目は「該当なし」と記載してください。

※すべての項目が「該当なし」の場合でも、必ず提出してください。

1. 所属学会・役職等

国際□□学会（2004.9～）

日本〇〇学会（2002.4～）

・編集委員（2005～2006）

・副会長（2012～2013）

日本△△学学会（1999.4～）

・第64回日本△△学会大会実行委員長（2009）

2. 保有資格等

3. その他